

岩手山・秋田駒ヶ岳・八幡平・秋田焼山 およびその周辺の地震活動*

東北大学理学部

1. はじめに

気象庁の報告¹⁾によれば、1979年9月から岩手山と秋田駒ヶ岳の中間にある滝の上温泉地区で泉温の上昇や、噴気量の増加等の異常があった。この付近は前述の2活火山の他に、八幡平と秋田焼山の2活火山があり、注意を要する地域である。そこで、東北大学微小地震観測網の資料をもとに、近年の地震活動を調べた。なお、これらの火山の活動状況は次のようである²⁾。

(i) 岩手山

1719年溶岩流を伴う噴火。1919年水蒸気爆発。その後も活発に噴気・地熱活動が続いている。

(ii) 秋田駒ヶ岳

1970年溶岩流を伴う噴火があり、その後も地熱噴気活動が続いている。

(iii) 八幡平

噴火の記録はないが、温泉・噴気の活動は活発。

(iv) 秋田焼山

時に泥流を伴う水蒸気爆発の記録があり、最後は1957年。

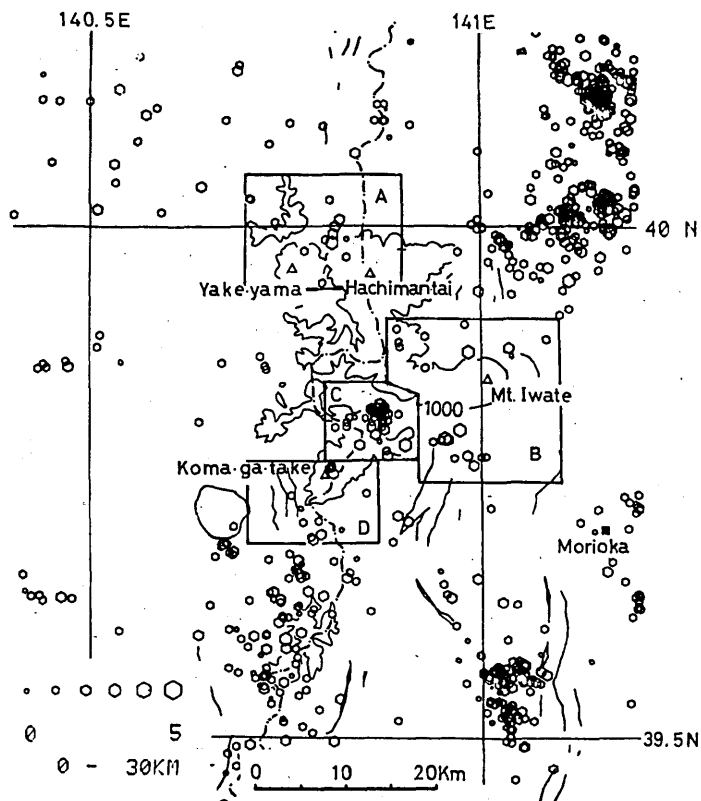
2 地震活動

東北大学微小地震観測網が整備されて、検知能力が向上した1975年4月以後1980年1月までの深さ30km以浅の地震の震央分布図を第1図に示す。便宜的にA(八幡平・秋田焼山)、B(岩手山)、C(滝の上温泉)、D(秋田駒ヶ岳)の4領域を図のように区切り、それぞれでの月別の頻度を第2図に示した。A、B、Dではほぼ一定の割合で地震が発生していることがわかる。また、Cでは1978年から特に活発になっている。この時期は1)に指摘されるように地熱発電所の操業開始時期に当たっている。なお、それぞれの領域での最大の地震は次の通りである。A:1978.10.8, M3.1, B:1977.5.27, M3.2及び1978.12.9, M3.2, C:1976.1.7, M3.1, D:1978.9.3, M2.6。いずれの領域でもM1~3の微小地震がほとんどである。

参 考 文 献

- 1) 気象庁地震課火山室(1979):全国火山活動概況,第11号
- 2) 気象庁(1975):日本活火山要覧

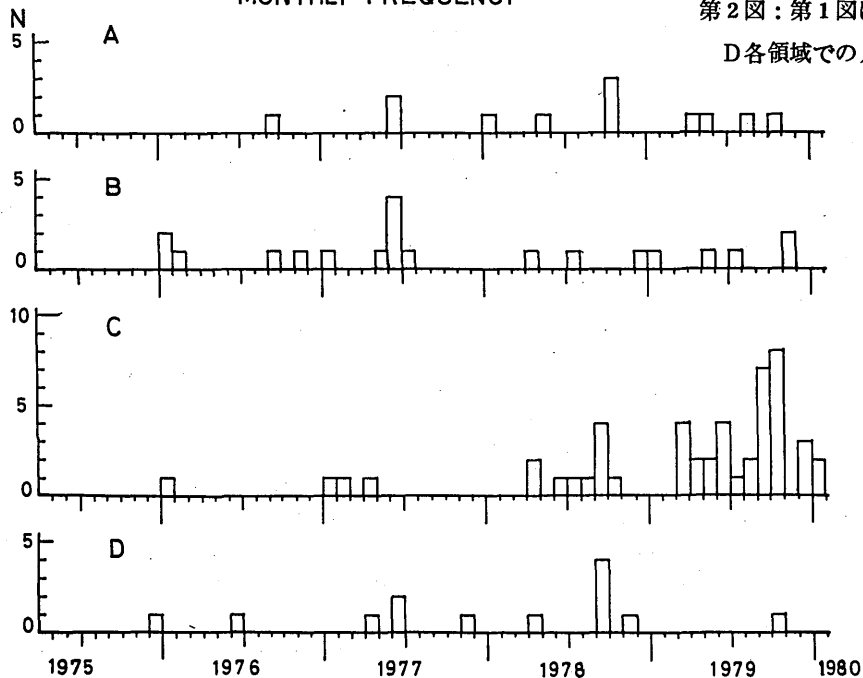
* Received Apr. 30, 1980



第1図：震央分布図。1975・4～1980・1 深さ30Km以下。

1975.4 - 1980.1

MONTHLY FREQUENCY



第2図：第1図に示すA, B, C, D各領域での月別地震回数。